

# 週 報

1990年3月4日 復活前第6主日

巻 10 49号

1989年度教会主題

「神の言葉に従う」

聖句 主はアブラムに言われた。「あなたは生まれ故郷、父の家を離れて、わたしが示す地に行きなさい。」……アブラムは主の言葉に従って旅立った。

創世記12章1節、4節a

- 目標
1. 生活を整えて礼拝、諸集会を守る。
  2. 新会堂の建築計画を完成する。

日本キリスト教団 **横浜港南台教会**

会 堂 〒233 横浜市港南区港南台 7丁目-8-29

電話 045-833-5323

振替 横浜 9-13394

牧師宅 〒235 横浜市磯子区洋光台 5丁目-6-3-304

電話 045-833-6616

牧師 禾火 吉 隆 友佳

## —牧師室から—

洋光台集会以「主の晩餐」についてパウロから学んだ。聖餐式の式文に聖書から「ふさわしくないままでパンを食し主の杯を飲む者は、主のからだを血とを犯すのである」と引用されている。この「ふさわしくない」という言葉に、罪を深く自覚し、自分を「ふさわしくない」と配餐を受けることをためらう方がいる。それはパウロの警告とは全く違う。そのように罪を悔いる人こそ配餐を受け、赦しに与かるように招かれているのである。

イエス・キリストは最後の晩餐で「これは、あなたがたのためのわたしの体である」又、「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約の血である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい」と制定された。聖餐式は私のためにイエス・キリストが十字架で死なれたことを記念（想起）する。そして、同じパンとブドウ酒をいただくことによって、イエス・キリストとの交わり

に与かって一つとされていることを確認する。さらに、神の国での会食を先取りした恵みである。聖餐式は、これらを含めた「キリストの現臨」を喜ぶ式である。

パウロが「ふさわしくない」と言ったのは、この「キリストの現臨」への信仰を忘れ、ただ飲み食いする享楽に走ることへの警告である。初代教会で行なわれた「主の晩餐」は現代の聖餐式とは違い沢山の食べ物と飲み物のある愛餐式のようなであった。パウロは「食事のとき各自が勝手に自分の分を食べてしまい、空腹の者がいるかと思えば、酔っている者もいる」又、「食事のために集まる時には、互いに待ち合わせなさい。空腹の人は、家で食事を済ませなさい」と語っている。貧しいため忙しく教会に来るのが遅れた人に、食事が残っていないような愛と配慮のないことを「ふさわしくない」と警告しているのである。罪を懺悔し赦しを信じる信仰のあるところにキリストは現臨して下さる。それが聖餐式の恵みである。